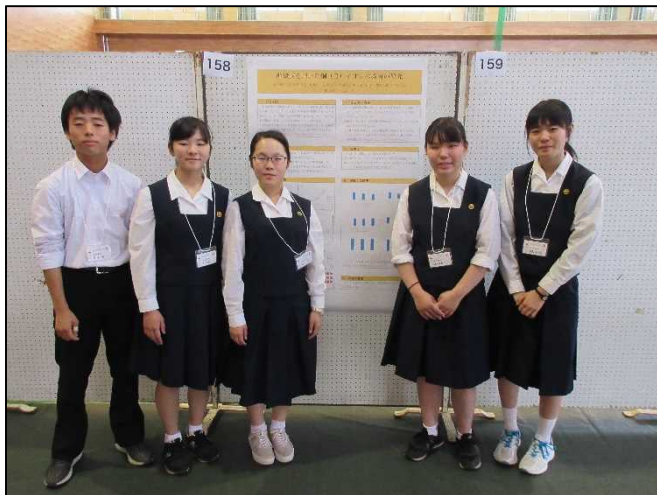


SSH通信

スーパーサイエンスハイスクール
岩手県立水沢高等学校
第5号 2019年 9月24日 発行

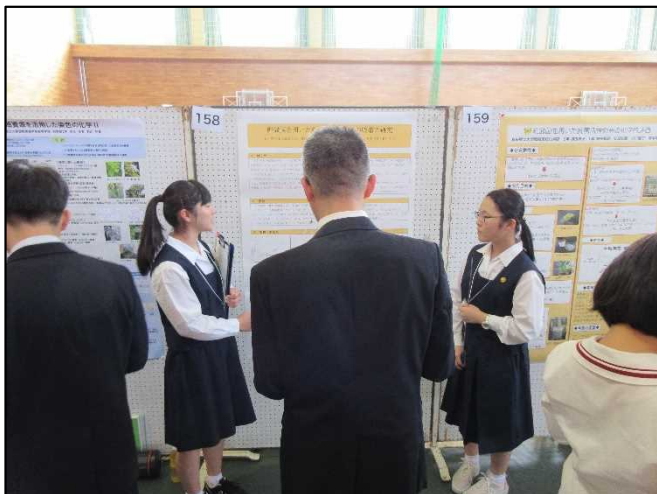
2019年度 化学系学協会東北大会

9月21日(土)~22日(日)に山形大学小白川キャンパスで開催された2019年度化学系学協会東北大会に2年理科の及川美結さん、佐藤安沙美さん、鈴木萌晏さん、豊嶋成葉さん、村上ももさんの5名が参加しました。



この会は日本化学会東北支部が毎年開催していて、日本化学会に所属する研究者、大学生、大学院生が研究成果を発表するもので、5年ほど前から高校生にもポスター発表の場が提供されるようになりました。水沢高校としては、2年ぶりの参加となります。今年度参加した高校は本校の他、秋田県立大館国際情報学院高等学校、秋田県立大館鳳鳴高等学校、山形県立山形東高等学校の3校でした。学界全体で、1日目のポスター発表数は164、2日目のポスター発表数も164で、高校生のポスター発表は2日目でした。

ポスター発表では大学の先生から多くのアドバイスをいただくことができ、今後の研究に生かしていきたいと思います。また、大学生や大学院生が作成するポスターを実際に見ることができ、ポスターの作り方も参考になりました。



研究発表以外にも3つの特別講演がありました。

1つ目は、京都大学化学研究所 所長の辻井敬亘先生の「濃厚ポリマーブラシのソフト&レジリエント・トライボロジー」という講演でした。省エネルギー・低環境負荷を実現するためには、摩擦・摩耗を高度に低減した材料が必要であること。現在、摩擦を低減するためには材料をダイヤモンドコーティングなどで表面を硬くする方法が用いられている。しかし、表面を硬くすると材料の摩耗が大きくなるという問題が発生する。そこで、材料の表面に歯ブラシのように高分子をつけたポリマーブラシによって、低摩擦、低摩耗の実現を目指しているという内容でした。

2つ目は、日本化学会会長の川合真紀先生の「世界の化学会を目指して」という講演でした。日本の現状、とりわけ日本の研究者が置かれている現状分析を踏まえて、これからは海外の研究者との共同研究が中心になっていく。そのためには、ツールとしての英語は不可欠である。海外留学の必要性を話されました。

3つ目は、東京理科大学の藤嶋昭先生の「光触媒の最新研究動向」という講演でした。藤嶋先生は、酸化チタンによる光触媒現象の発見者として世界的に有名な方で、貴重な講演でした。また、閉会式終了後には、本校の生徒と記念写真の撮影をしていただきました。

